

Kitagawa K et al.,

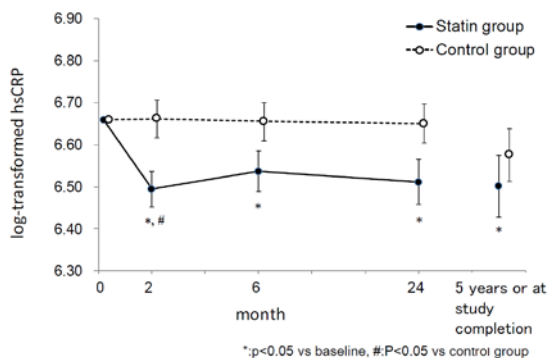
Reduction in High-Sensitivity C-Reactive Protein Levels in Patients with Ischemic Stroke by Statin Treatment: Hs-CRP Sub-Study in J-STARS

J Atheroscler Thromb. 2017 Mar 7. doi: 10.5551/jat.39354. [Epub ahead of print]

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/28302952>

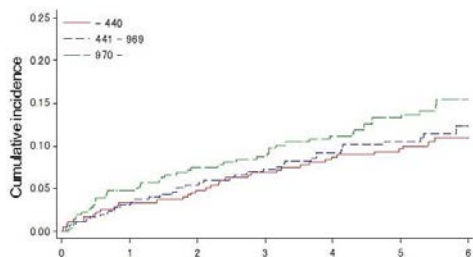
非心原性脳梗塞患者を対象としてプラバスタチンの脳卒中再発予防効果を検証した J-STARS 研究の付随研究としてプラバスタチンの高感度 CRP 濃度低下作用について検証した。1045 例（プラバスタチン 10mg 投与例 545 例、コントロール 500 例に割り付けられた）が本研究に登録され高感度 CRP 濃度の中央値は 711 $\mu\text{g/L}$ であった。プラバスタチン投与群では発症 2 か月後に 592 $\mu\text{g/L}$ に低下したが、コントロール群では有意な変化を示さず両群間で有意な差が観察された。また追跡期間中 HsCRP 濃度の高い群では、脳卒中再発および全血管イベントが有意に多く観察された。本研究から非心原性脳梗塞慢性期患者に対して常用量のスタチンは高感度 CRP 濃度を有意に低下させ、観察期間中の高感度 CRP 濃度が高いと血管イベントリスクが高まることが明らかになった。

高感度 CRP 濃度の推移



高感度 CRP 濃度と脳卒中、血管イベントとの関連

A: Stroke



B: All Vascular events

